



PRESS RELEASE

養命酒製造株式会社

2026年6月5日

報道関係各位

「女性は7、男性は8の倍数の年齢で体調に変化が訪れる」
薬用養命酒の新CMは、二〇〇〇年前の東洋医学の古典から。

養命酒製造株式会社（本店：東京都渋谷区 代表取締役社長 田中英雄）は、薬用養命酒の新TV
CM「7と8の倍数で篇」（15秒・30秒）を6月6日（土）より順次放映開始いたします。

女性は7、男性は8の倍数の年齢
体調に変化が

64 63 72 56 56 49

出典：『黄帝内経』

CM掲載ページ：<https://www.yomeishu.co.jp/yomeishu/tvcm/>

■TVCM概要

「女性は7、男性は8の倍数の年齢に、体調に変化が訪れるといいます。」——この、東洋医学の古典的医学書『黄帝内経（こうていだいけい）』に基づくナレーションでCMは始まります。倍数の年齢で体調が変化するという考え方を知って驚く皆さん。「自然の生薬の力で7つの症状を改善」する薬用養命酒を服用すると「うん、なるほど。」と、納得と期待がこめられた感想が漏れるのでした。



■節目年齢を、体の変化に気づくきっかけに

『黄帝内経』は二千年ほど前に書かれました。この中で、年齢と体の変化について、例えば男性は、8歳で永久歯に生えかわり…16歳で子をつくることができるようになり…24歳で背丈が伸び…32歳で筋骨が強壮となり…40歳で体力や毛髪の成長にかげりが見え始め…48歳でしわや白髪が目立ち始め…56歳で体全体の老化が見え始める…などと記載されています。

体が年齢とともに成長し、成熟していきながら、ある時を頂点に徐々に弱っていく様子が、節目の年齢で区切られることで印象深く示されています。

実際には体質は人それぞれです。性別の考え方も変わってきています。ある年齢で皆が同じく体に変化するわけではないでしょう。それでも節目年齢の考え方は、現代の私たちにも有用です。

■「養生」で明日を変えていく

自身の体の変化に気づき、その先を想像し、変化に合わせたケアをすることは、健康と元気を保つために大切な心がけです。食生活を見直したり、生活に運動を取り入れたり、ささやかなケアでもその積み重ねで明日は変わります。東洋医学でいう「養生」とは、こうした体のケアのこと。『黄帝内経』でも、「健康長寿」の願いを叶えるための養生が語られています。病気になったあとの「治療」だけでなく、病気の手前の状態(=未病(みびょう))のうちに体を守るための知見のひとつです。

しかし、忙しい生活を送っていると、養生は後回しにされがちです。「7と8の倍数」をきっかけに、体の変化と養生に目をむけていただきたく、このCMを作成しました。年齢を重ねて体が弱ってきた…食欲がない…疲れや冷えを感じやすい…そのような不調を感じるようでしたら、薬用養命酒が一助になります。

■女性は7、男性は8？



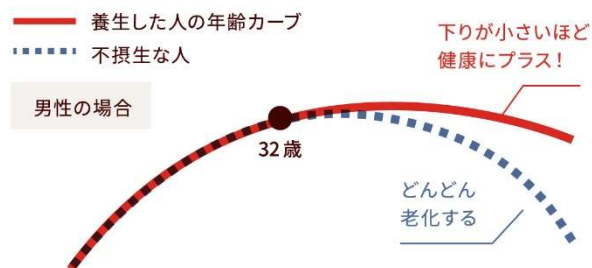
黄帝内経に基づく人の体の変化

7歳	歯が生えかわり、髪が長くなる	8歳	髪が長くなり、歯が永久歯に生えかわる
14歳	月経がはじまって、子を産めるようになる	16歳	精通を迎え、子をつくることができるようになる
21歳	体が成熟し、背丈も伸びきる	24歳	筋骨がしっかりし、背丈も伸びて最も盛んになる
28歳	筋骨がしっかりし、髪の長さが極まり、身体が盛んになる	32歳	筋肉が強壮となり、筋肉が豊かでたくましくなる
35歳	顔の色艶にかげりが出て、髪や頬のハリに衰えが現れる	40歳	体力や毛髪の成長にかげりが見え始める
42歳	顔がやつれ、髪に白いものが混じり始める	48歳	肉体的に衰えが始まる。しわや白髪が目立ち始める
49歳	肉体が衰え始め、閉経を迎える	56歳	生殖能力が弱まり、体全体の老化が見え始める
		64歳	五臓六腑を始め身体的に衰え、歯や髪が抜ける

『黄帝内経』では伝説上の帝王である黄帝（こうてい）が問い、医学の師である岐伯（きはく）がそれに答える形式で、東洋医学の思想や養生が説かれていきます。

女性の体が28歳、男性が32歳でピークを迎えるという点や、老化の経過において、現代の医学的な認識と重なるところは多く、医学が日進月歩している現代においても、二千年前の体の変化は違和感なく読むことができます。

体の変化は「腎気（じんき）」（＝東洋医学でいうところの成長、発育、生殖に関わるエネルギー）の変化にともなうものとして書かれます。その変化は下記のようなカーブで描くことができます。不摂生を控え、養生を取り入れることで、このカーブを下がり幅の少ない緩やかなカーブに変えることができると考えられます。



※養命酒製造「女は7の倍数、男は8の倍数特設サイト」から <https://www.yomeishu.co.jp/x7x8/>

■14種類の生薬が溶け込む、滋養強壯の薬用酒



薬用養命酒の14種類の生薬は独自の組み合わせです。ニンジン、シャクヤク、ウコンなどおなじみの生薬から、ウショウといった他の生薬製剤にはあまり用いられない生薬も。「巡らせる」「補う」「温める」「取り除く」の4つの働きをもつ生薬がお互いを補い、薬用養命酒ならではの幅広い効能を導き出しています。

- ・巡らせる：ウショウ、コウカ、ヤクモソウ、ウコン
- ・補う：ジオウ、ニンジン、インヨウカク、シャクヤク、ニクジュヨウ、トチュウ
- ・温める：ケイヒ、チョウジ
- ・取り除く：ボウフウ、ハンピ



烏樟 [ウショウ]
クロモジの枝。香りよく健胃薬にも。



紅花 [コウカ]
ベニバナの花。血行や血流に作用。



益母草 [ヤクモソウ]
メハジキの地上部。血行を促す作用。



鬱金 [ウコン]
健胃作用など。スパイス名ターメリック。



地黄 [ジオウ]
補血・強壯の薬として用いる生薬。



人參 [ニンジン]
強壯強精・抗疲労など幅広い効能。



淫羊藿 [インヨウカク]
イカリソウ。強壯強精効果で知られる。



芍薬 [シャクヤク]
血液の滋養に。婦人科系の働きを整える。



肉苁蓉 [ニクジュヨウ]
砂漠の植物。強壯・強精の生薬。



杜仲 [トチュウ]
生薬には樹皮を使用。虚弱体質などに。



桂皮 [ケイヒ]
スパイス名シナモン。冷えや胃腸の不調に。



丁子 [チョウジ]
スパイス名クローブ。消化機能に作用。



防風 [ボウフウ]
セリ科特有の香り。お屠蘇にも用いる。



反鼻 [ハンピ]
古くから強壯効果の良薬として知られる。

■ 7つの効能で健康な体へ導く

薬用養命酒は生薬をみりんに由来する原酒に漬けて造ります。シナモンの香味とやさしい甘みの特徴で、苦いものではありません。服用すると、生薬の薬効成分が血行を良くしながら体内を巡り、新陳代謝を活発にすることで、肉体疲労や胃腸の不調といった症状を抑え、健康な体へと導きます。



■ 商品概要



薬用養命酒 第2類医薬品

効能・効果：肉体疲労 虚弱体質 胃腸虚弱 食欲不振 血色不良 冷え症 病中病後の滋養強壮に

用法・用量：1回 20mL、1日3回、食前又は就寝前に服用

希望小売価格（税込）：1000mL 2,420 円 / 700mL 1,705 円

お求めは、薬局・ドラッグストアで

本リリースに関する問い合わせ先

養命酒製造株式会社

担当：事業戦略部 養命酒広告コミュニケーショングループ 加藤

TEL：03-3462-8338

養命酒製造株式会社

代表者名：代表取締役社長 田中英雄 東京都渋谷区南平台町 16-25

www.yomeishu.co.jp